

認知症の義父に
寝取られる私

あと
り
秋
尚





ぱあゝ

裕太 パパの事
忘れちゃダメだぞ



もうゝ やつと
寝かしつけたのに

あゝ 裕太に
一週間も会えないなんて
パパ耐えられないよお

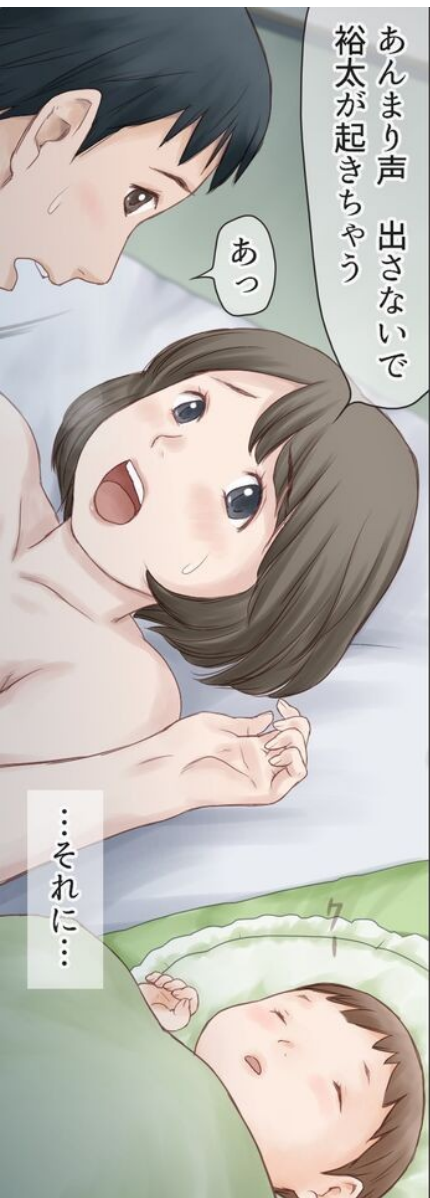
ぱゝ

ぱゝ



また出張？

そうなんだ
急に決まってね
明日から
一週間





父さん：
母さんが亡くなってから
気が抜けてるっていうか

もしかしたら
ボケてるんじゃないかって
思う事があるんだ

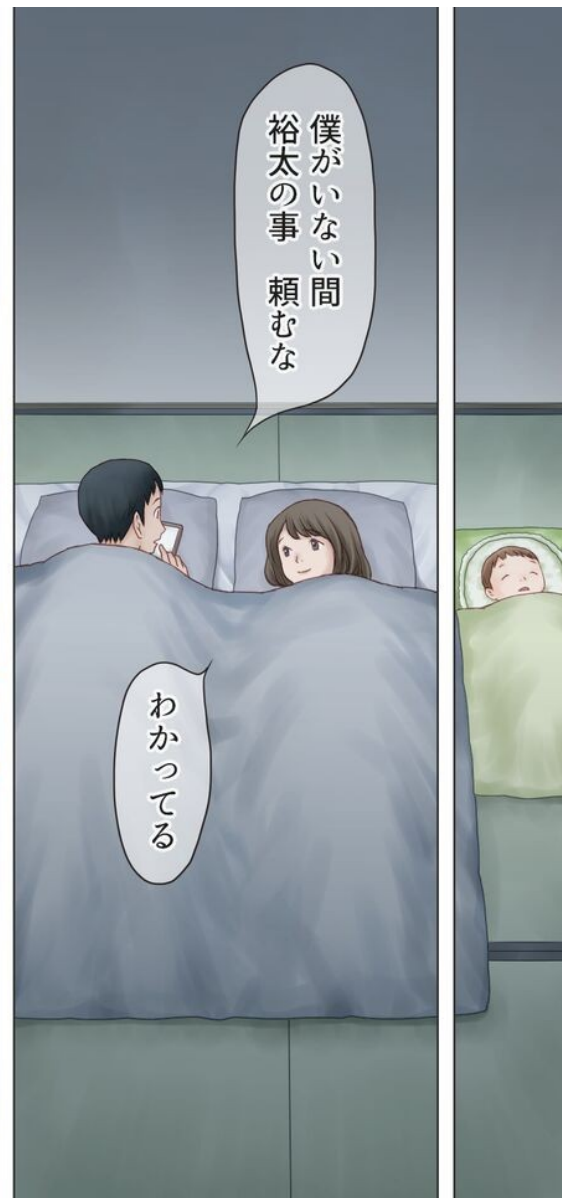
そ…そう？



あと…

父さんの事も

お義父さん？



僕がいない間
裕太の事 頼むな

わかってる



良江というのは
亡くなった
お義母さんの名前で

ひろしも
出張が多くて
大変だな

なあ
良江

あの…私…

ああ いかん
わしとしたことが
また…

そうだな…
良江は もう…

お義父さん…

その夜
裕太を寝かしつけて
いると…



良江

そろそろ
寝ないか？



えっ？

わしは先に
寝るぞ



あ…

はい…

裕太が眠りかけだったので
つい『良江』と呼ばれた事を
訂正せずに受け入れて
返事をしてしまいました





良江

ち…
違います



横で裕太が寝ていたのと
あまりの事に 体が固まってしまって
私の声は 出ていませんでした

お義父…
さん？

…

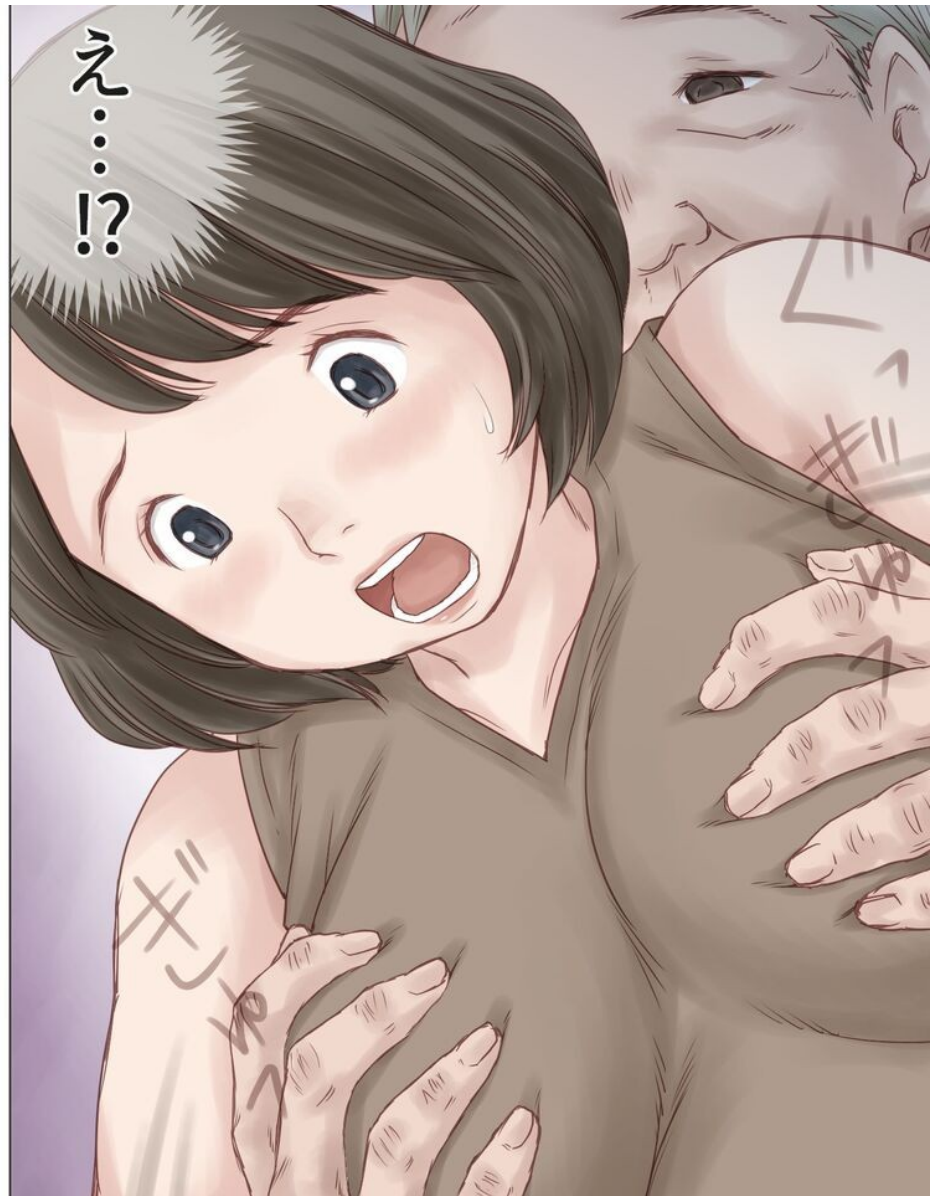


良江

いつまで
待たせるんだ

えっ？











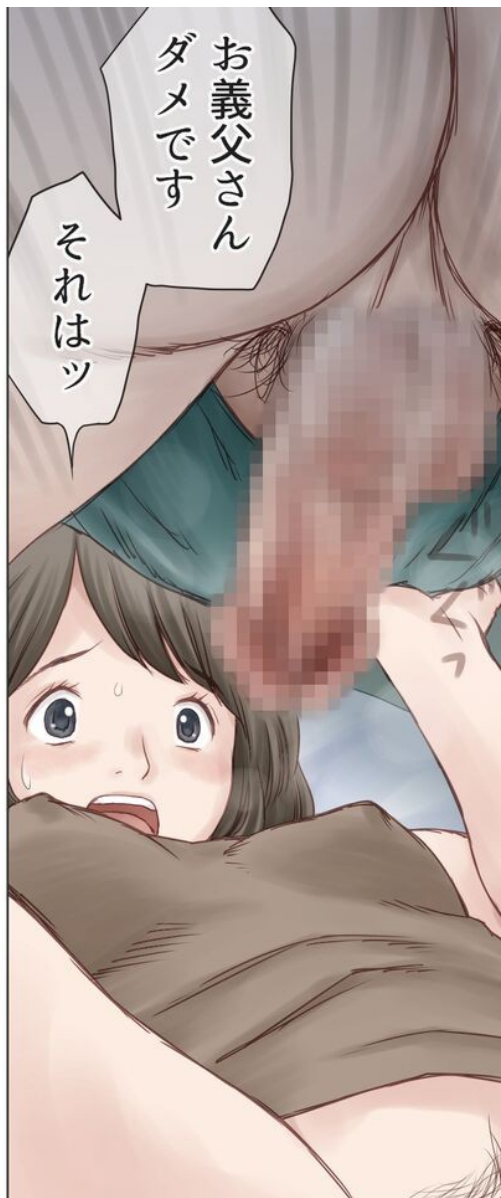


私は思わず
大きな声を出して
しまいました

お義父さん
やめてっ

結衣です

お義母さんじゃ
ありません



お義父さん
ダメです

それはッ

私は 全力で暴れて
逃れようと思いました

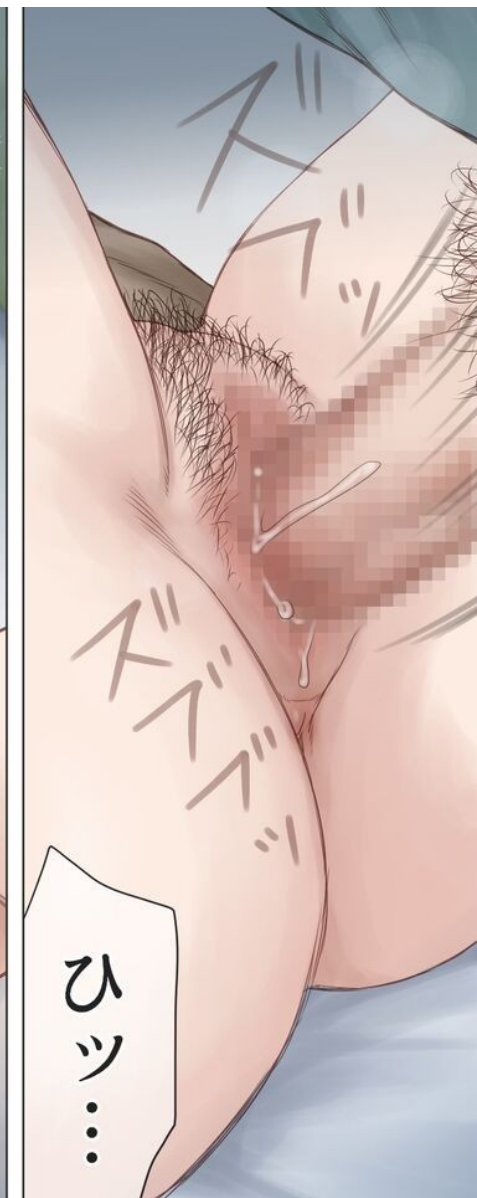
や...ああっ

どうした
良江

やめてっ

でも 年を取っていても
お義父さんは 男性です

あッ





私は今 自分が
どういう状況にいるのかを
必死に考えていました

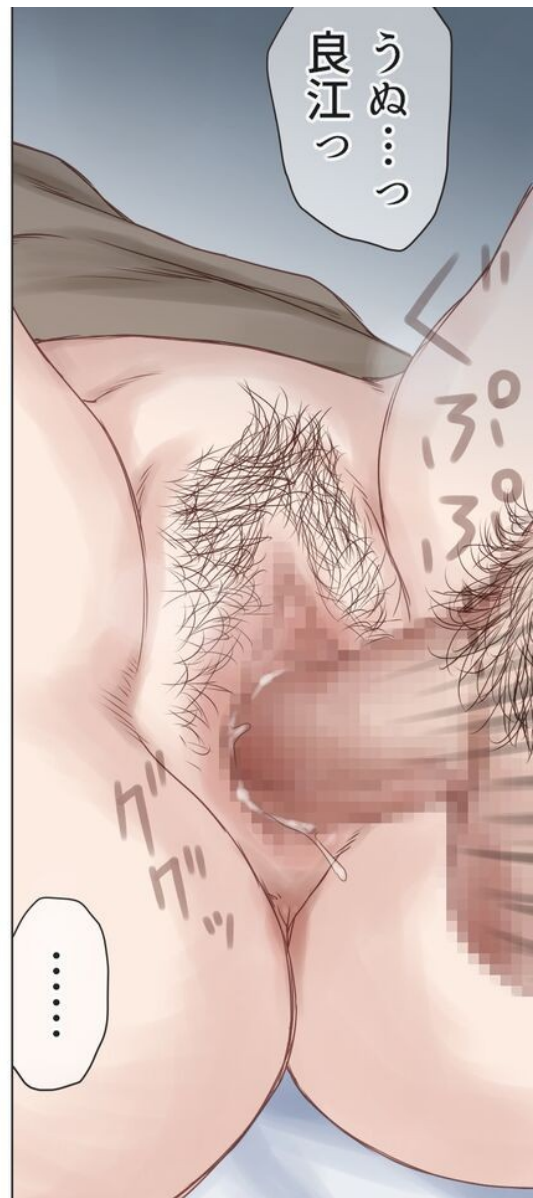
ふう

ふうっ

夫の出張中に
義父に
犯されている

どうだ 良江
わしのイチモツは
まだまだ硬いだろう

…違う
お義父さんは 私の事を
お義母さんだと思ってる



うぬ…っ
良江っ

30
30

グ
グ
グ

……

これは…許される事？
もし夫に知られたら
私は…どうなるの？

裕太は？

良江え

良江っ

離婚？

ダメっ
裕太の将来が…

ああっ

どうしよう
どうすればいいの



どうだ 良江
気持ちいいか？

お義父さんは：
本気で私の事を
お義母さんだと
思ってる

はあ

ふう

今だけ：今夜だけこのまま
お義母さんだと思われたまま
済ませてしまえば：

んっ：

う：

お義父さんが正気に戻っても
私が何事もなかったように
していれば
夢を見ていたと思うかも：

そしてもう二度と
こんな事にならないよう
絶対に気をつける：

ゆせっ、
ゆせっ、

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ

私はもう
この方法しかないと
考えていました

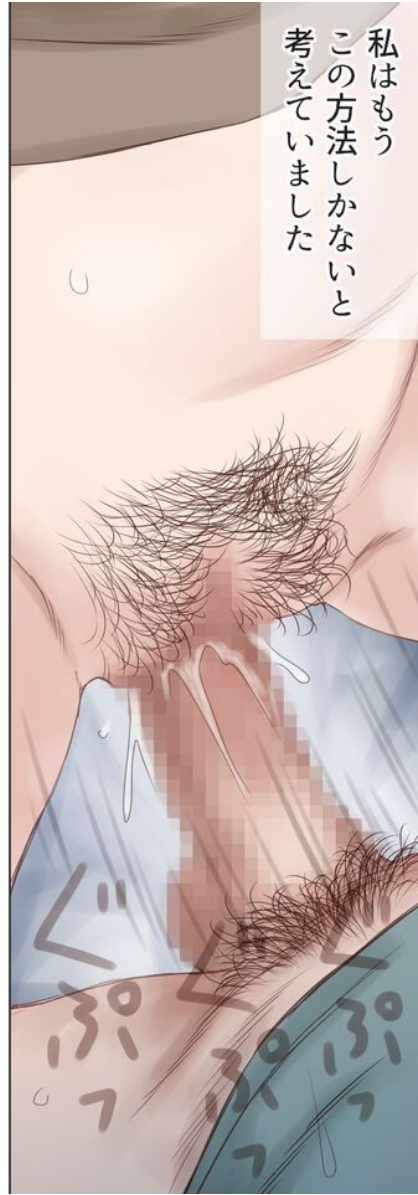
今だけ…私が結衣だと
気づかれないように…

お…とう…さん

大丈夫…
お義母さんも
お義父さんを
こう呼んでいた…

ああ
良江

…そして私は
こわばらせていた体から
チカラを抜いていきました



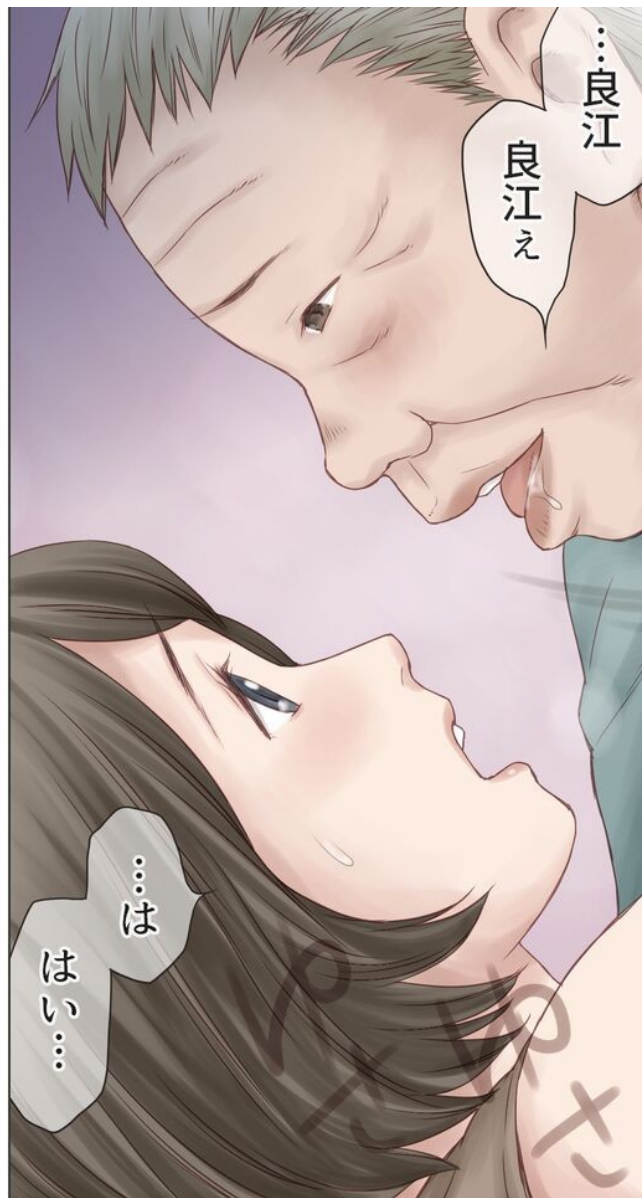
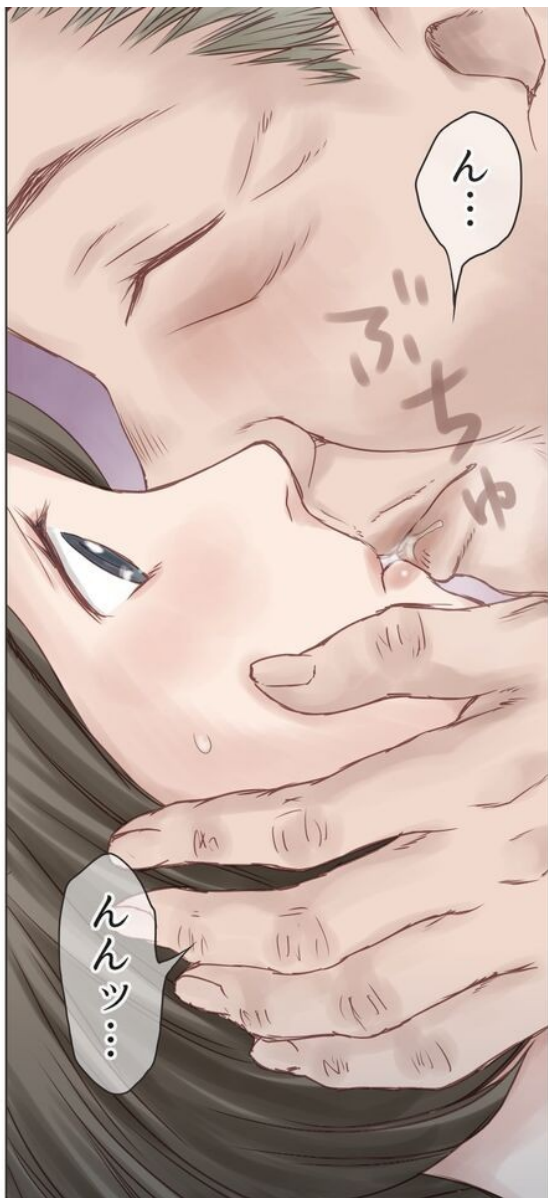
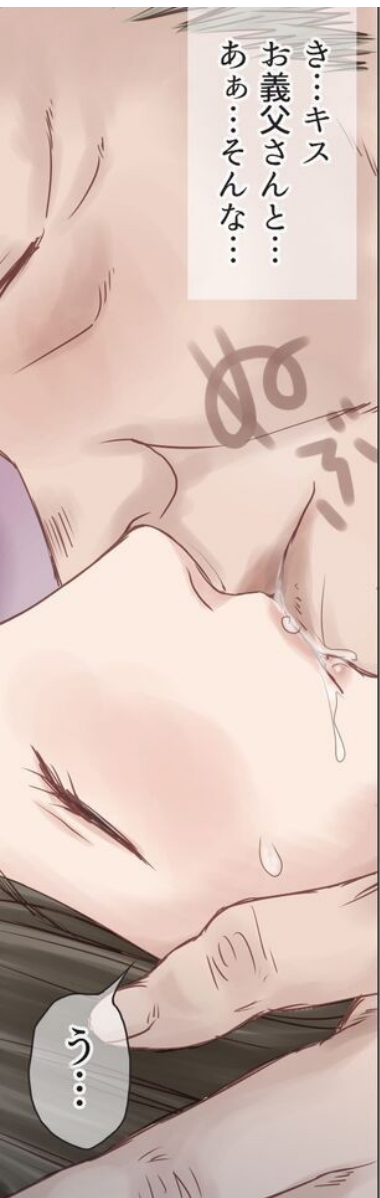
体のチカラを抜いたとたん
お義父さんの：モノが
私の膣の奥に ヌルリと
入ってきました

ああッ

夫のものとは
あきらかに違うモノに
突かれてる

あんっ

いつもと違う場所を
こすられているッ



お義父さんのクチビルは
分厚く生々しくて…

そして…
ねっとりとした舌が
私のクチに…

うう…っ

でも…
受け入れるしかない









ああ 良江

もっとしつかり
つながろう





私 乳首はダメなんですっ
ああでも お義父さんに吸われて
感じちゃうなんて…

そら…
交互に
吸ってやるぞ

あぁ〜ッ

どうした
やけに反応が
いいじゃないか



その後も
私は何度も絶頂
させられて…

ああん

ああっ

でも…
お義父さんは
まだ…

長い…
一度の行為が
こんなに長いなんて
はじめて…

ここか？
ここがいいのか
良江

あっ

ユキ
ユキ
もせ
もせ

バキ
バキ
バキ
バキ

ああ…っ
もう…
おとうさん
許して…っ





で…
出るッ

あっ…

あああッ

出てる…

お義父さんの精液…ッ

お義父さんの精液が
私の膣に出されてる…



よ…よし
わしも
そろそろだ

一緒にイクか
良江っ

は…はいっ

いっ
いっ
いっ
いっ

避妊の事は
もちろん頭を
よぎりました…
でも 私は…

どうだ良江
イツたか？

本当に同時でした
そして…

は…
はい…っ

想像以上の絶頂…

その瞬間…私の中で
何かが更新されたのです





…ごめんね
ひろし…

感じて…
キスをして…
そして…



それから しばらくの間は
お義父さんのモノが
入っている状態でした



私が まだ
快樂の中に
いたからです…



夫の名前を 口にした時
一瞬 お義父さんの表情が
止まったような…

わしは…
便所に行つて
部屋で寝なくては…

はあ

はあ

それが何を
意味するのか
その時は
考えられませんでした

その夜 私は 裕太が眠る横で
お義父さんに抱かれました…

もちろん 私が望んだ事ではありませんが
結果的には お義父さんを受け入れたのです

体中に お義父さんの
肉体の感触と 汗とニオイが
残っています…
…そして

私の膣には
お義父さんの精液が…

どろり…



私が夫の名前を 口にしました
お義父さんは 正気に
戻っていたのです…

ああ 結衣さん
わしは
なんて事を…



その通りでした…



目が覚めた時
私の体には 布団が
掛けられていました

お義父さんが？
…もしかしたら
やっぱり
あの時…

私は… お義父さんを責めたりするつもりはありませんでした… 昨日の事は 無かった事に…



お義父さんも同意してくれました…

それしかない… それで元通りになる…

裕太は元気にしてる？
パパがいなくて泣いてない？

泣いてないよ

え〜っ

嘘よ パパはどこってさみしそう

結衣は？

私もよ

でも…その日の内に…

良江

あっ

ああっ



裕太は…大丈夫
テレビを観てる



私は ふたたび
お義父さんの行為を
受け入れていました

あっ

あんっ
おとうさんっ

良江っ

良江っ

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ



おおう
良江が動いて
くれるのか

これは
楽でいいのう

はあ

こんなの 夫にも
した事ないのに…

はあ

ゆさっ

ゆさっ
ゆさっ

ぬさっ
ぬさっ

ぬさっ
ぬさっ

私 おかしく
なってる？

ああつ

でも…
止められない

体が
勝手に…







大丈夫よね 裕太には
まだ何をしてるかなんて
わからないし…

あ…ツ

よ…
良江えツ

あああ
ああんっ

おとう
…さんツ

…私は

どっどっ
びゅびゅ
ゴッゴッ
ゴッゴッ





認知症の義父に寝取られる私 完